

学校教育の力を信じて。

震災ボランティアの体験から

東日本大震災から1年。福井県教職員組合は、被害を受けた学校の復旧作業の支援ボランティアに、7月と8月の2度にわたって計8人の教職員を派遣しました。参加された3人の方に、現地の様子と学校教育の役割について語っていただきました。



【出席者(左から)】
 近藤 雅樹さん(万葉中教諭)
 竹内 和代さん(万葉中事務職員)
 近藤 智栄実さん(進明中教諭)

— ボランティアを志望したのはなぜですか？

近藤(雅) 終業式前の忙しい時期でしたが、担任がない学年主任の自分なら何とかなるだろうと。実は5月の連休にも社協に登録して個人的に現地入りしています。泥かきをしながら「必ずもう一度来よう」と決めていました。



竹内 事務職員として、何かお手伝いできればと。それと福井豪雨で浸水したときにボランティアの方々にお世話になったので、別の形で恩返しをしたくて。

近藤(智) 私も、支援に行きたいけど行けない先生方に代わって、震災という現実をしっかりと受け止めてこようと思いました。

— 現地では、どんな作業を？

近藤(雅) 自習の監督や、女子バレー部の部活動の指導。あとは生徒

徒の作文入力です。

竹内 備品シールを貼ったり、中学校に届いた義援金を当時の在校生に配布する手伝いをしました。仮設校舎建築の仕事も重なり、事務の方一人では無理だと思

近藤(智) 書類の泥落としや、生徒たちの作文入力。学校に送られてきた支援物資を仕分けて、保護者の方が持ち帰りやすいよう並べたりしました。

— 皆さんの様子は？

近藤(雅) 子どもたちは一見元気そうですが、メールでは心配や不安を書いていました。

竹内 先生自身も被災されて、疲れがたまっていたと思います。昼休みに、職員



近藤(智) 元気すぎる子や黙々も喜んでくれました。

と勉強する子など、表現はいろいろでしたが、子どもたちの不安は感じました。作文の中の「ふるさとのために頑張りたい」という言葉が印象的でした。

— 学校関係者として感じたことは？

近藤(智) 日頃防災教育に力を入れていたおかげで、金石東中



学は生徒教職員全員が無事だったそうです。自分たちの危機管理は大丈夫かと考えさせられました。作文にも避難訓練が役に立ったという感想は多かったですね。

竹内 一度避難した場所に小石が落ちてきて、ここでは危険とさらに上に逃げたおかげで助かったと聞き、すごい判断力だなと思いました。

近藤(雅) 先生も被災されている中、補習や部活もしっかり行われていて素晴らしいと思いました。

近藤(智) 今後はメンタル面が心配です。子どもたちへのケアは教育の役割だけれど、今の体制でできるのか？ 同じ教師として自分はどう関わられるのかも考えます。

— 今回、学校でボランティアができたことについて

近藤(智) 貴重な体験ができ、専門性も生かすことができた。受入れもスムーズで、仲介していただいた県教組の配慮を感じました。

竹内 学校には、学校関係者でないといけない手助けがたくさんあります。全国組織である教職員組合だからこそできたボランティアだったと思います。

近藤(雅) 部活も含め、いろんな場面で携わることができました。生徒の作文も授業で使わせてもらっています。何よりこの体験は、教師としての自分の糧になったと感謝しています。

◇期間：7月19日～23日の第1班に参加 ◇派遣先：金石東中学校

